

# 異世界魔王と 召喚少女の奴隷魔術

The King of  
Darkness Another  
World Story

## SLAVEMAGIC

第2話 召還されてみればⅡ

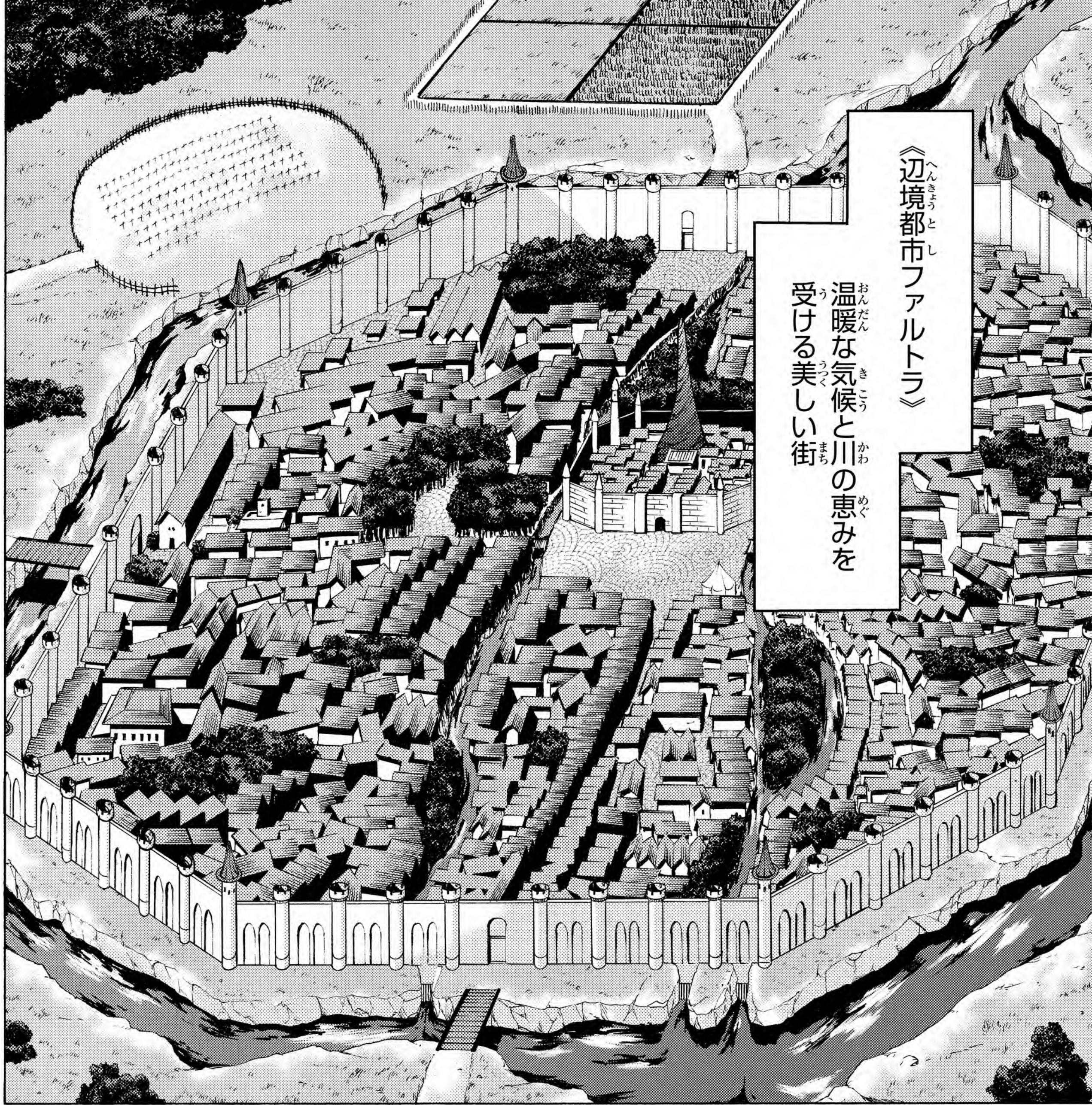
異世界の歩き方、教えてあげる♡

原作 むらさきゆきや

漫画 福田直叶

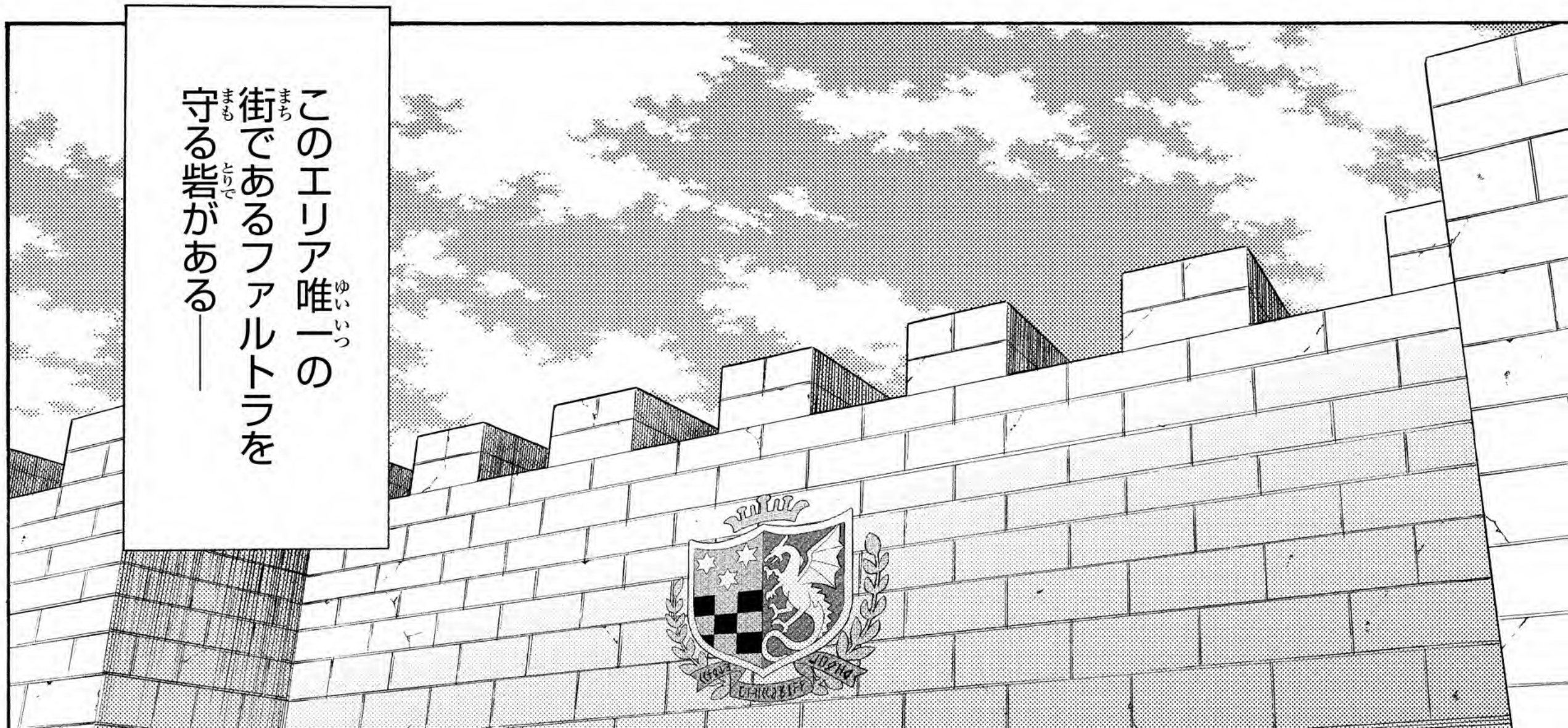
キャラクター原案: 鶴崎貴大  
(講談社ラノベ文庫「異世界魔王と召喚少女の奴隷魔術」より)





《辺境都市ファルトラ》  
へんきょうとし

温暖な気候と川の恵みを受け  
おんだん きこう かわ めぐ  
る美しい街  
うつく まち



このエリア唯一の  
ゆいいつ  
街であるファルトラを  
まち  
守る砦がある——  
まも



《ウルグ橋砦》  
きゅうきょうい

魔族の侵攻を阻止する  
重要防衛拠点である



西方に広がる  
《人喰の森》の先は  
魔族の領土であり



そこからモンスターが  
出現するためだ

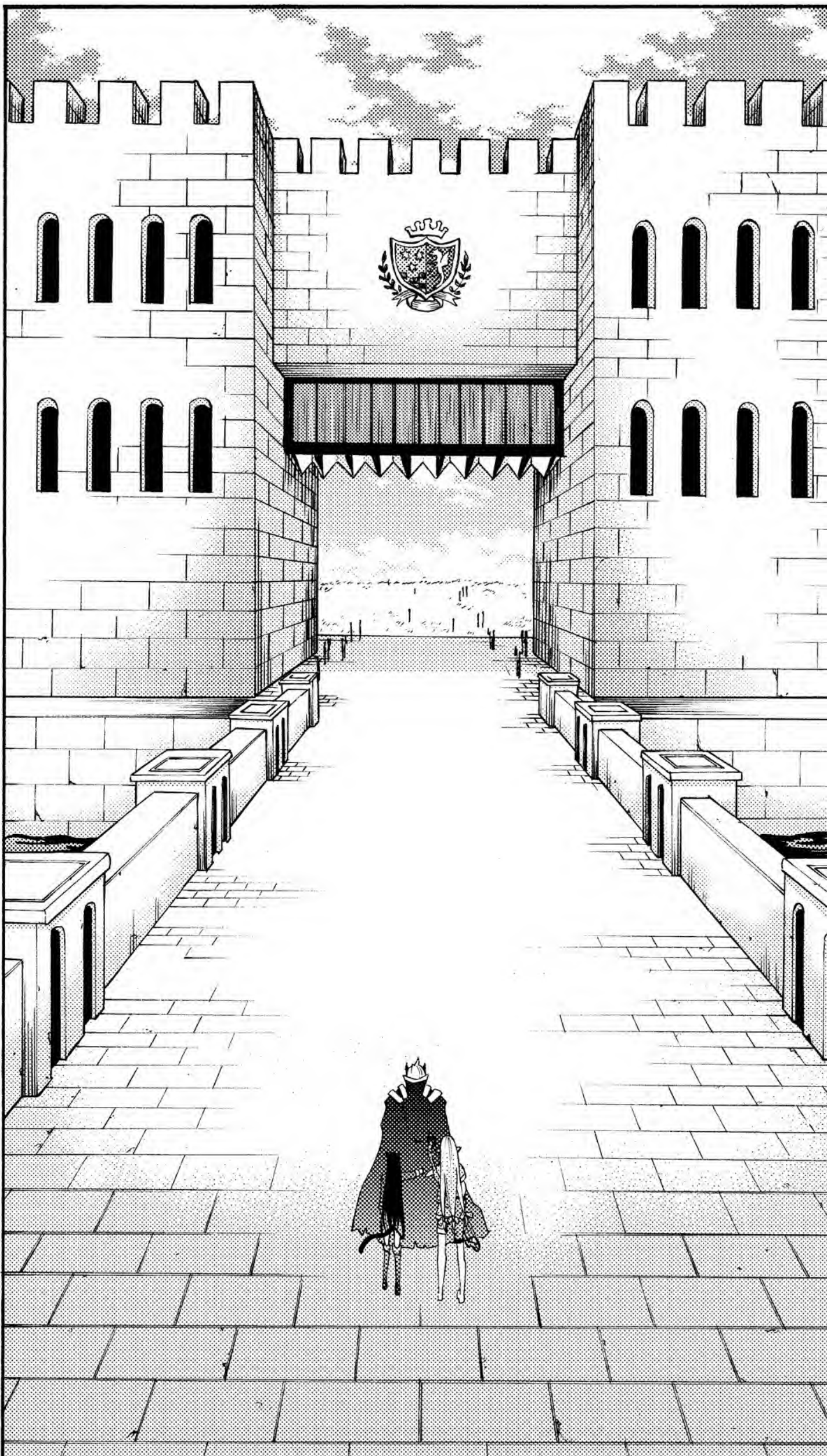
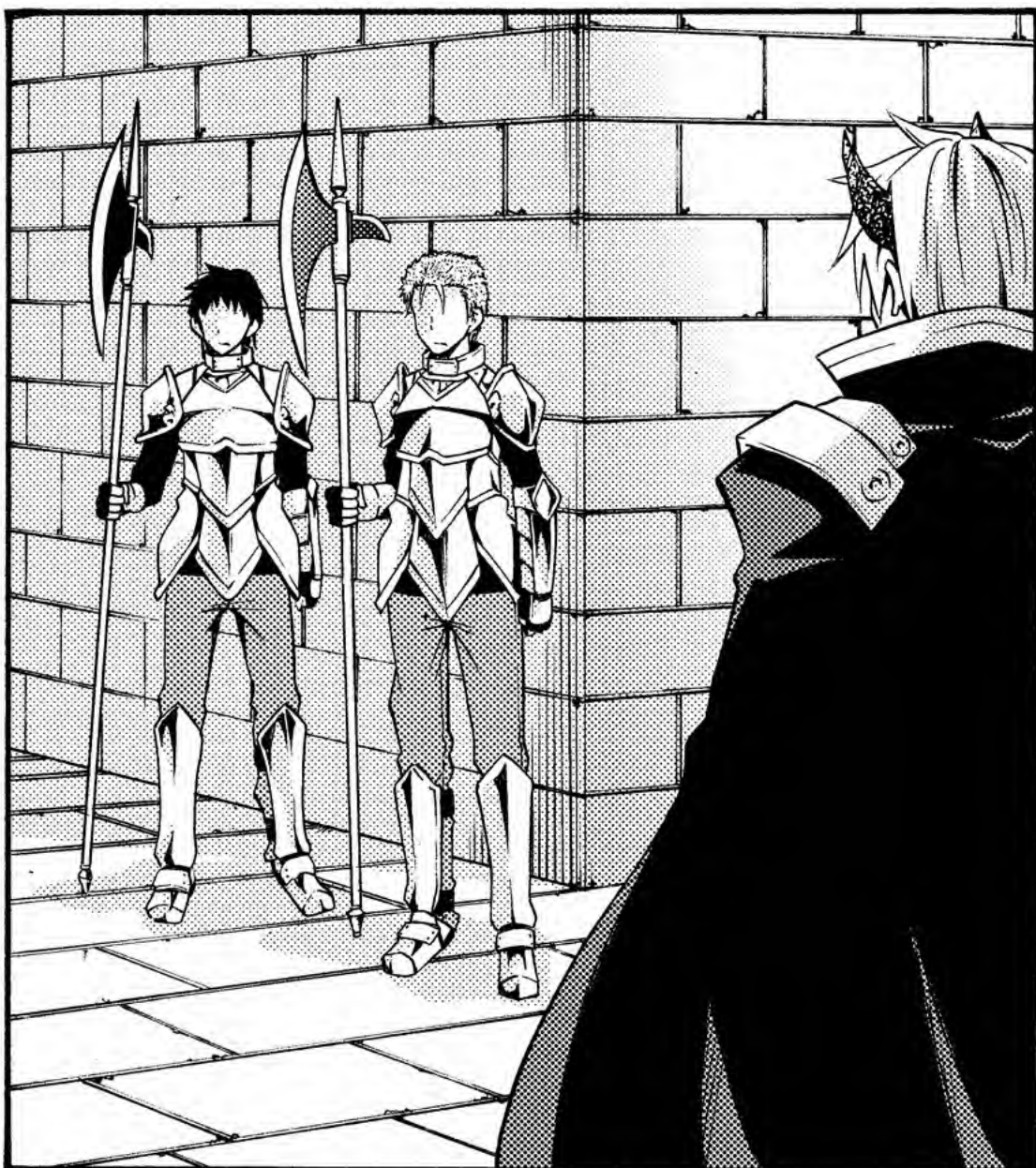
—というのが  
ゲーム設定だったな



他プレイヤーたちは  
仲間との待ち合わせや  
休憩所として  
利用していた…

いつも俺だけは  
一人でダンジョンに  
向かったけどな！













なんだ貴様は？

この俺を呼び止める  
とは 相応の覚悟が  
あるのだろうな？



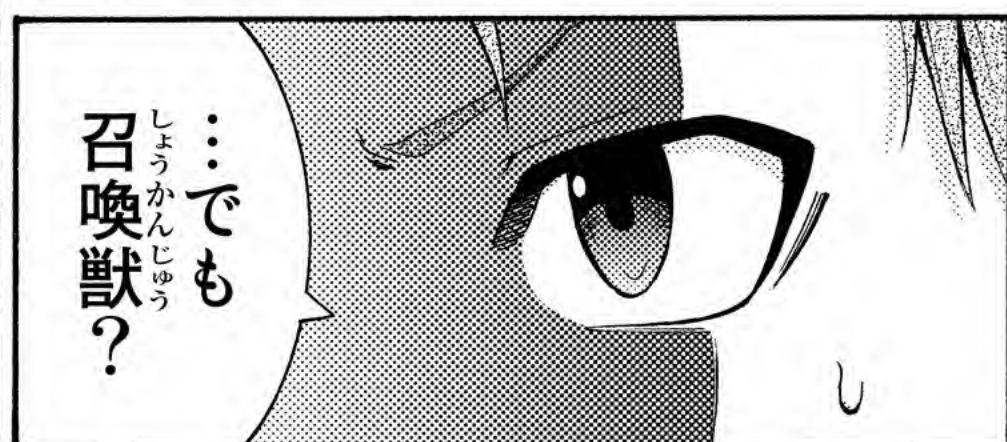
なるほど…この世界の  
ウルグ橋砦は検問所  
みたいなものか

い…いや…我々は  
ここを通る者をチェック  
しているのだが…



…わたしの召喚獣の  
ようなものです

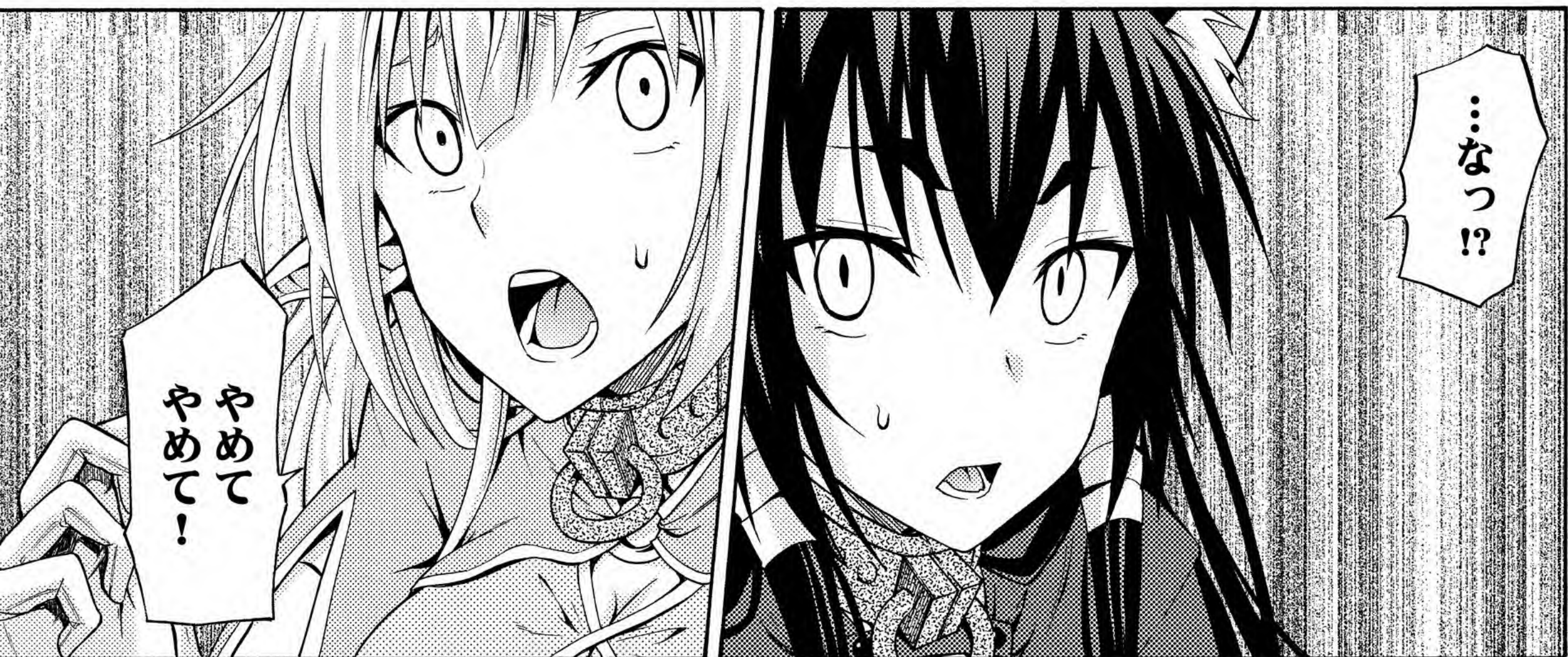
















……見<sup>み</sup>ないで  
くださ

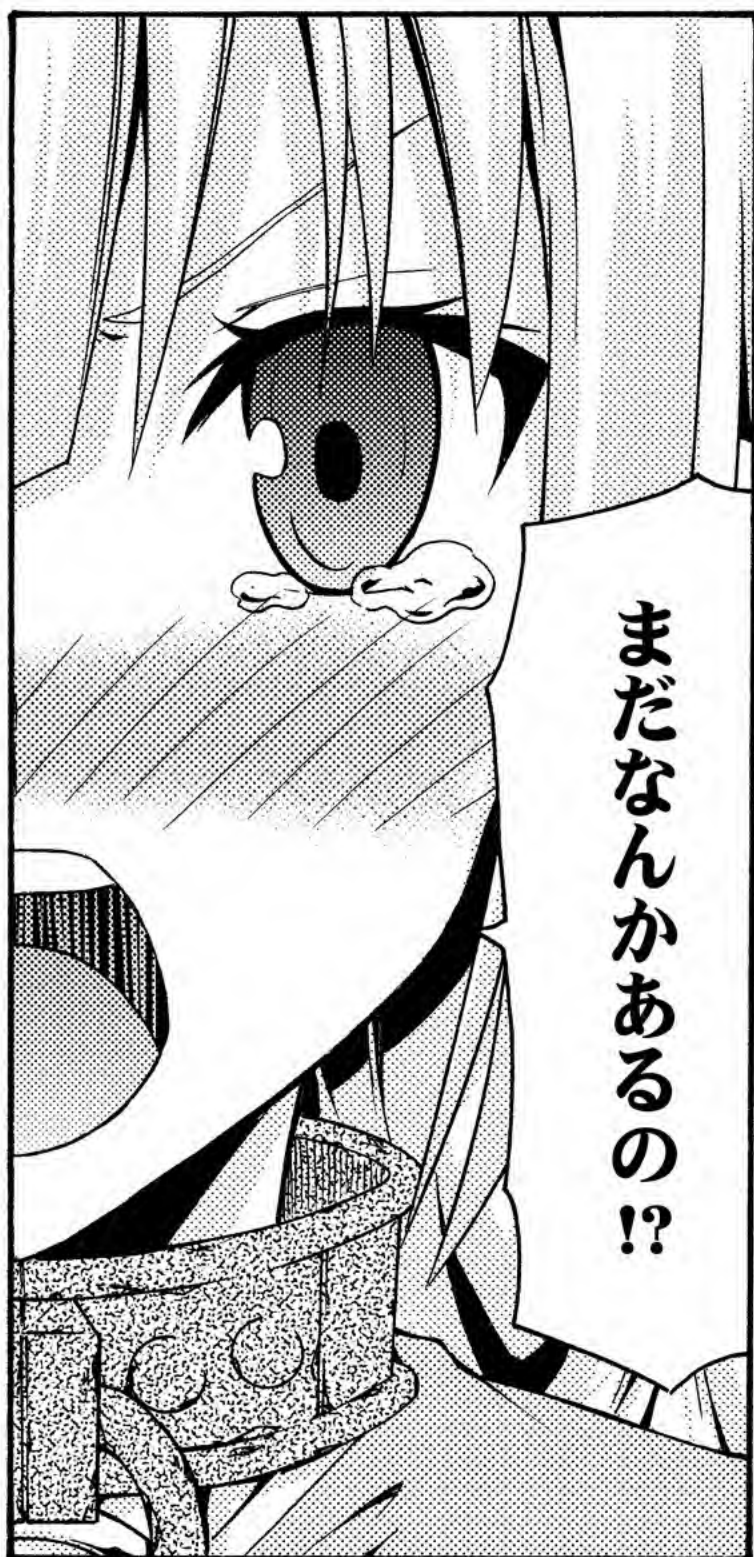
ううう…  
お  
降ろしてよ!





ええ!?  
普通は召喚獣に  
首輪が…ええっ!?

人族に…  
ええ!?



まだなんかあるの!?



…通してください



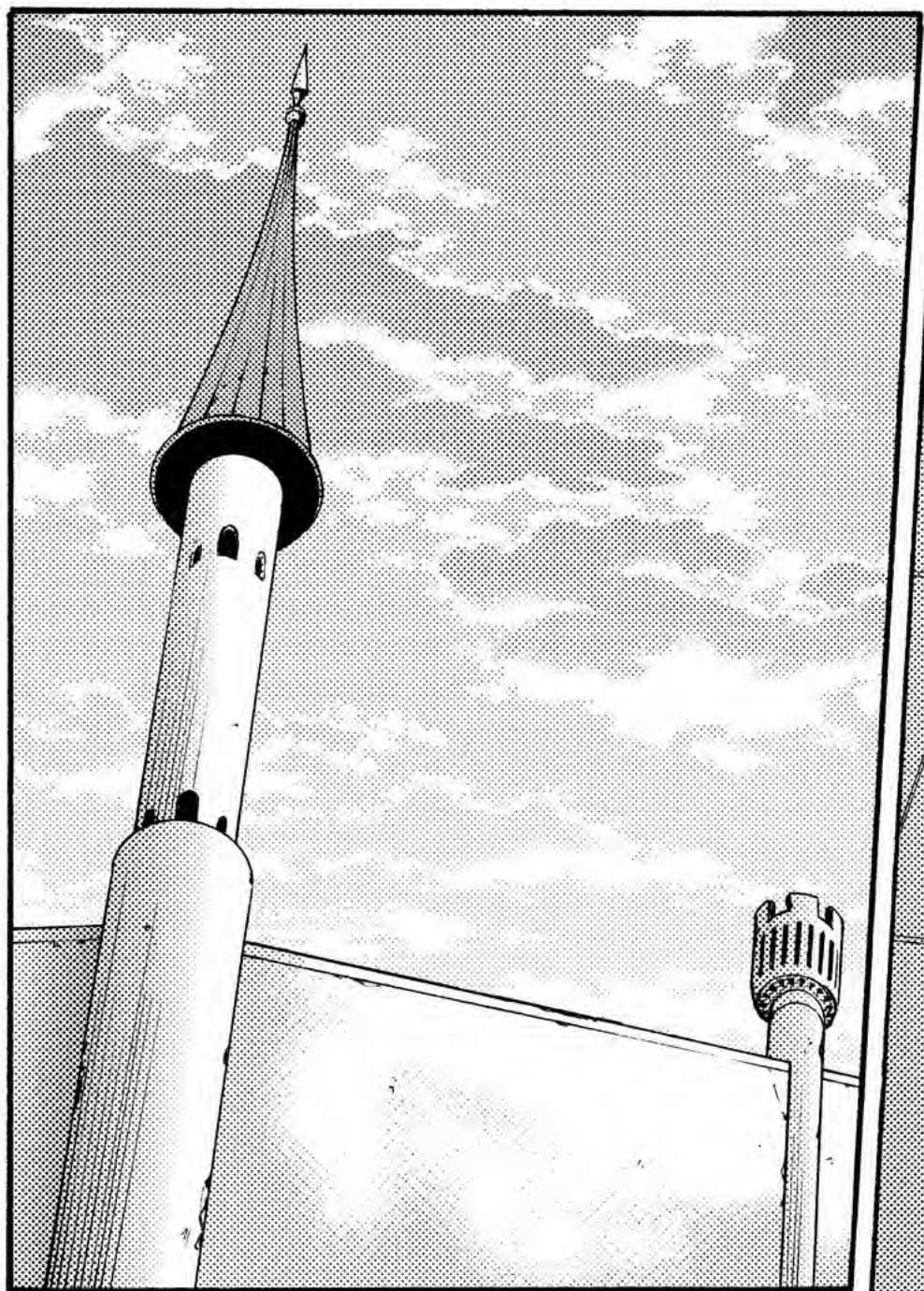
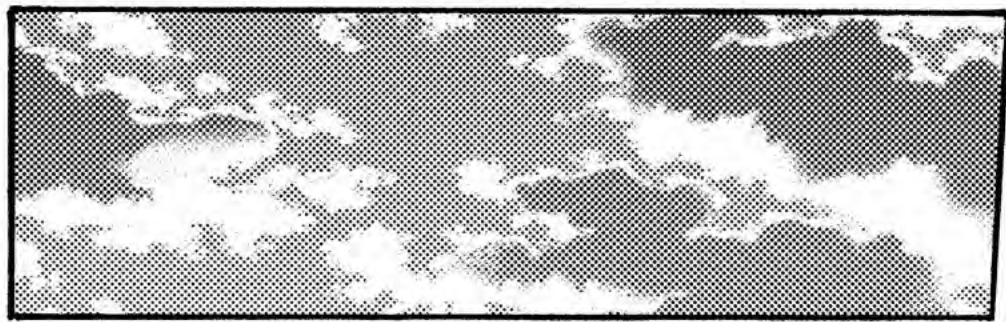
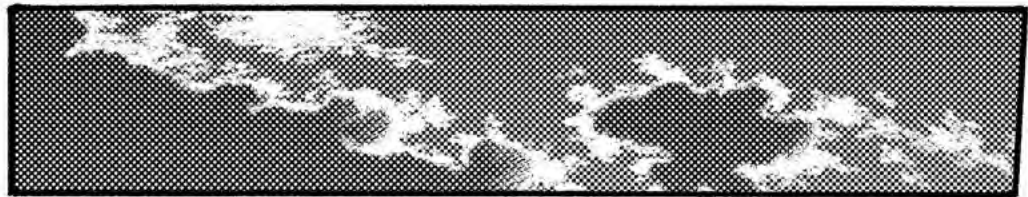
俺を召喚獣などと  
一緒にするのは  
不愉快だ

これ以上俺の機嫌を  
損ねるようであれば

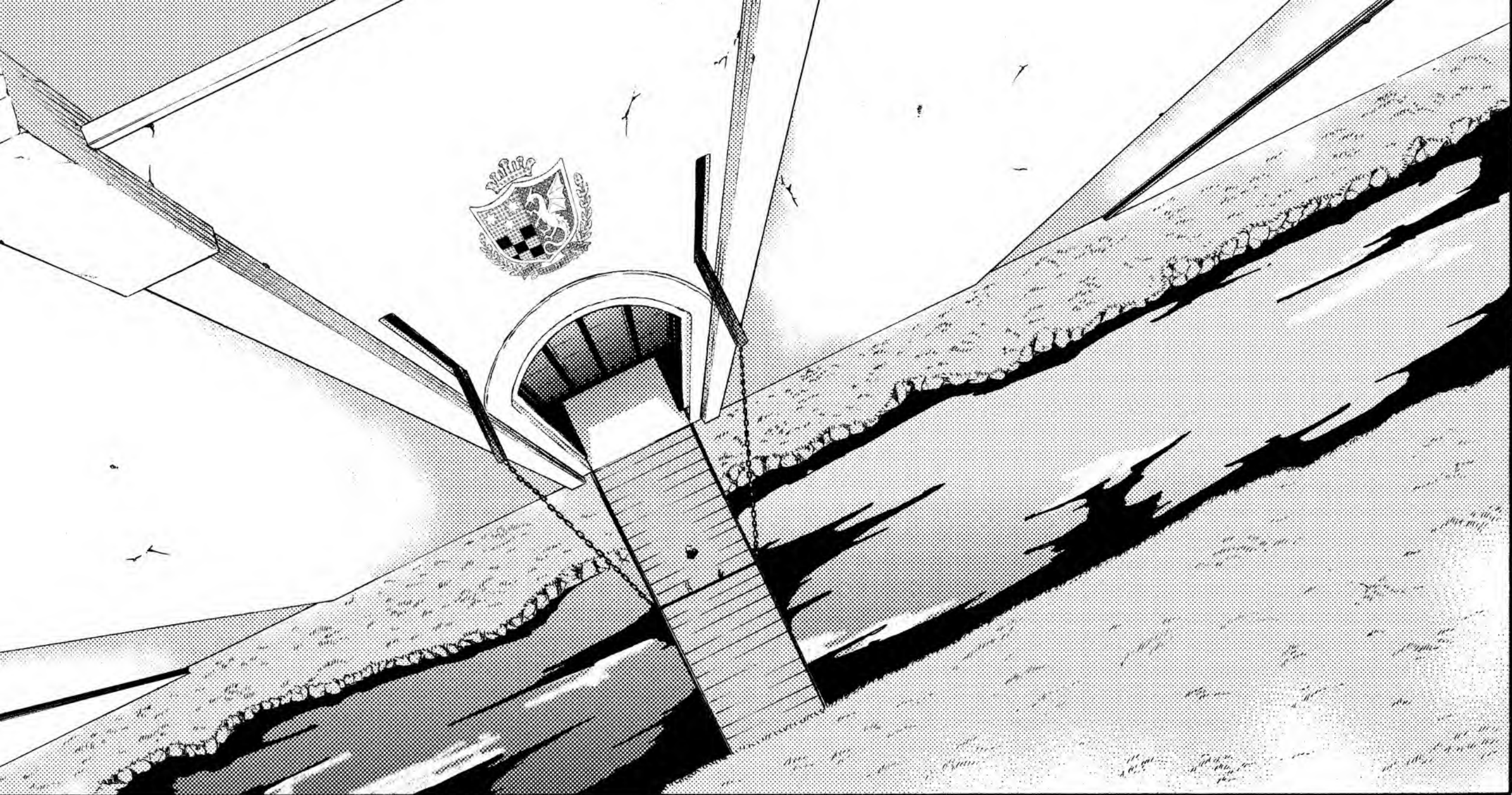


す…すみませんでした!  
お気を付けて!











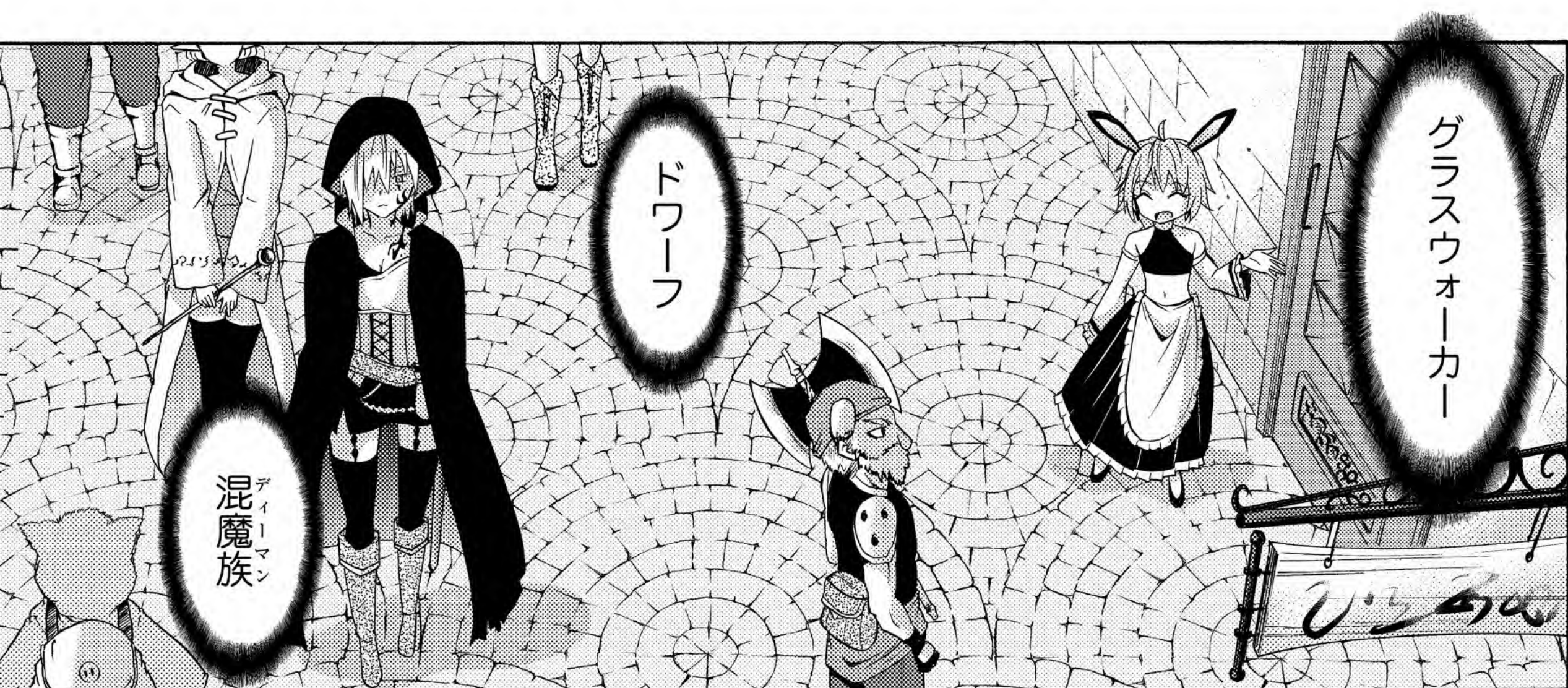
《<sup>へんきょうとし</sup>辺境都市フルトラ》

にしもんまえ  
西門前

カ  
リ  
ヤ  
カ  
リ  
ヤ











やばい…気分が悪く  
なってきた…ニート  
だったから人混みに  
あてられたか？

…あ  
あの…



…宿屋に行きたい  
のですが…

モシ  
モシ



この仕草…  
トイレか？



なんだ？









あの男の奴隷に  
なったのか!?



驚いたな……



エルフの子もすごい  
家の出身らしいぜ  
なんかあるよな…

あのレム様を奴隷に…  
魔術師協会に報せた  
ほうがいいかもな





首輪を見られるのを  
恥ずかしがって  
いたのは

隷従魔術を反射された  
事実を知られたくない  
からと思っていたが……

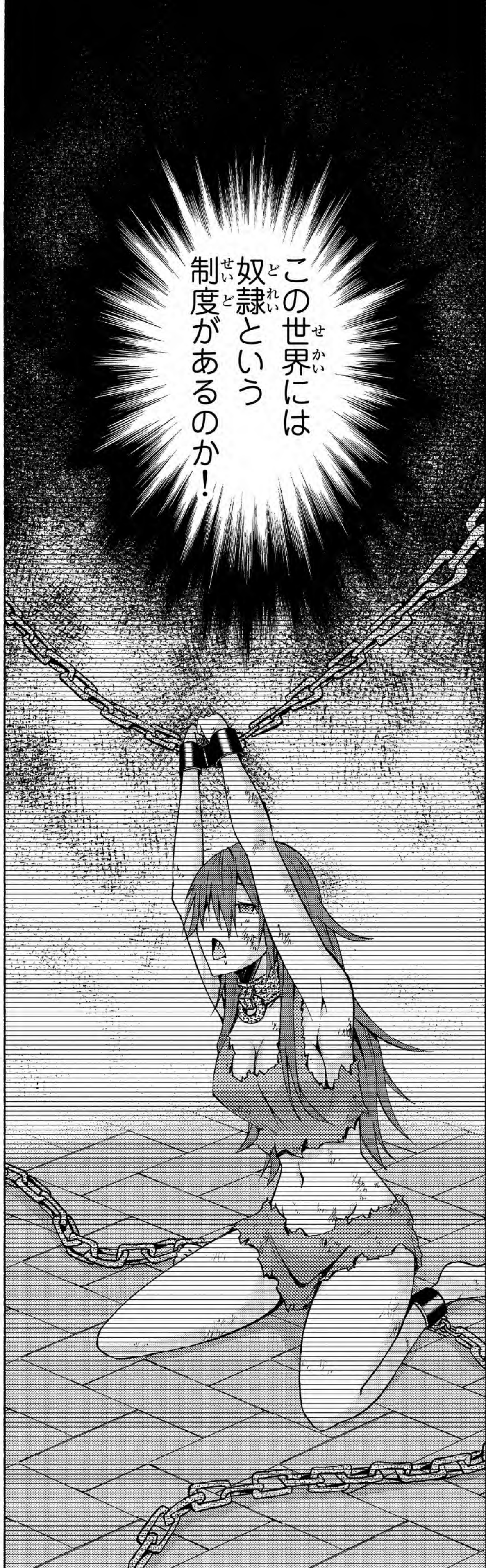
奴隷だと  
勘違いされる  
からだったのか！



ゲームには奴隷なんて  
設定なかったから  
考えもしなかった……



……うわあ  
どうしよう……



この世界には  
奴隷という  
制度があるのか！













やどや 安心亭の  
看板娘  
メイドちゃんだよ〜♪

ああ…ここは  
ゲームどおりね

…部屋の鍵を  
くださいますか

レムちゃん  
おかえり〜☆

召喚は成功  
したかな？

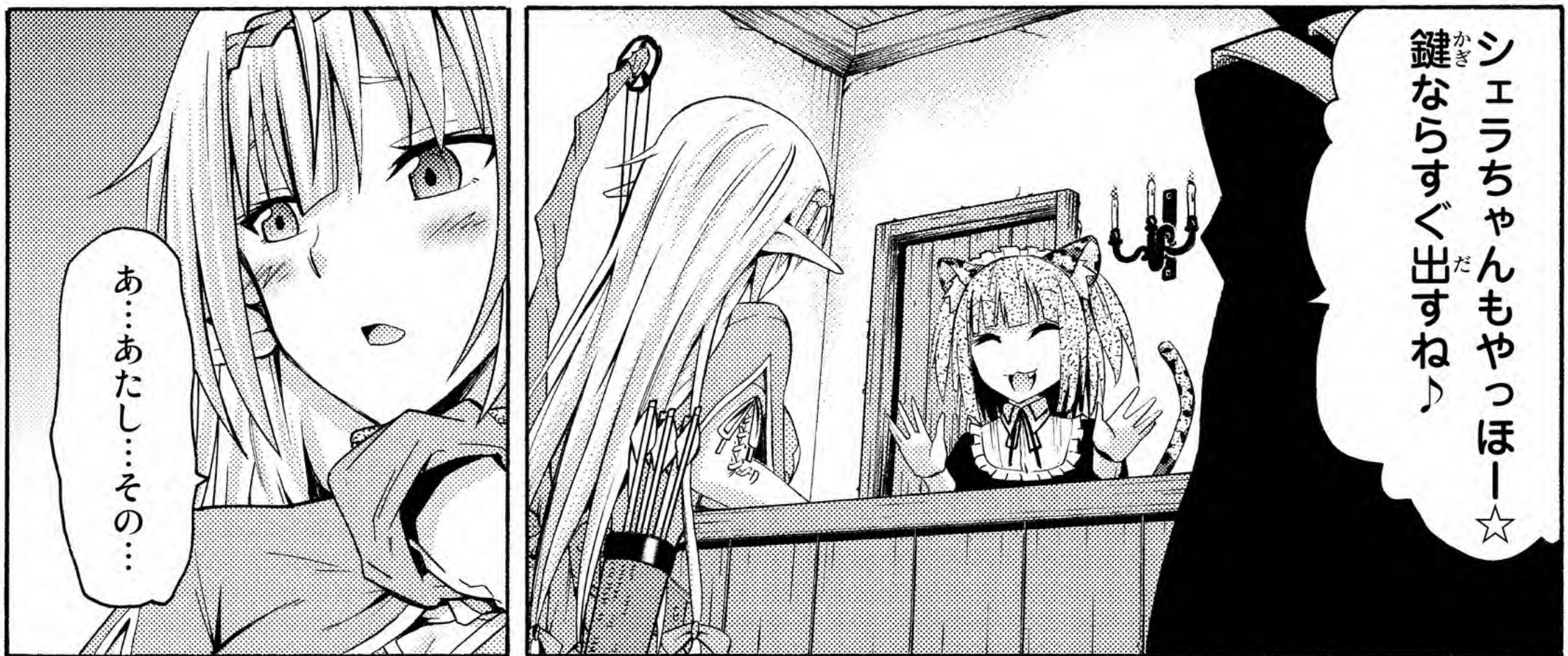
…成功しました  
…召喚だけは…

フホッ





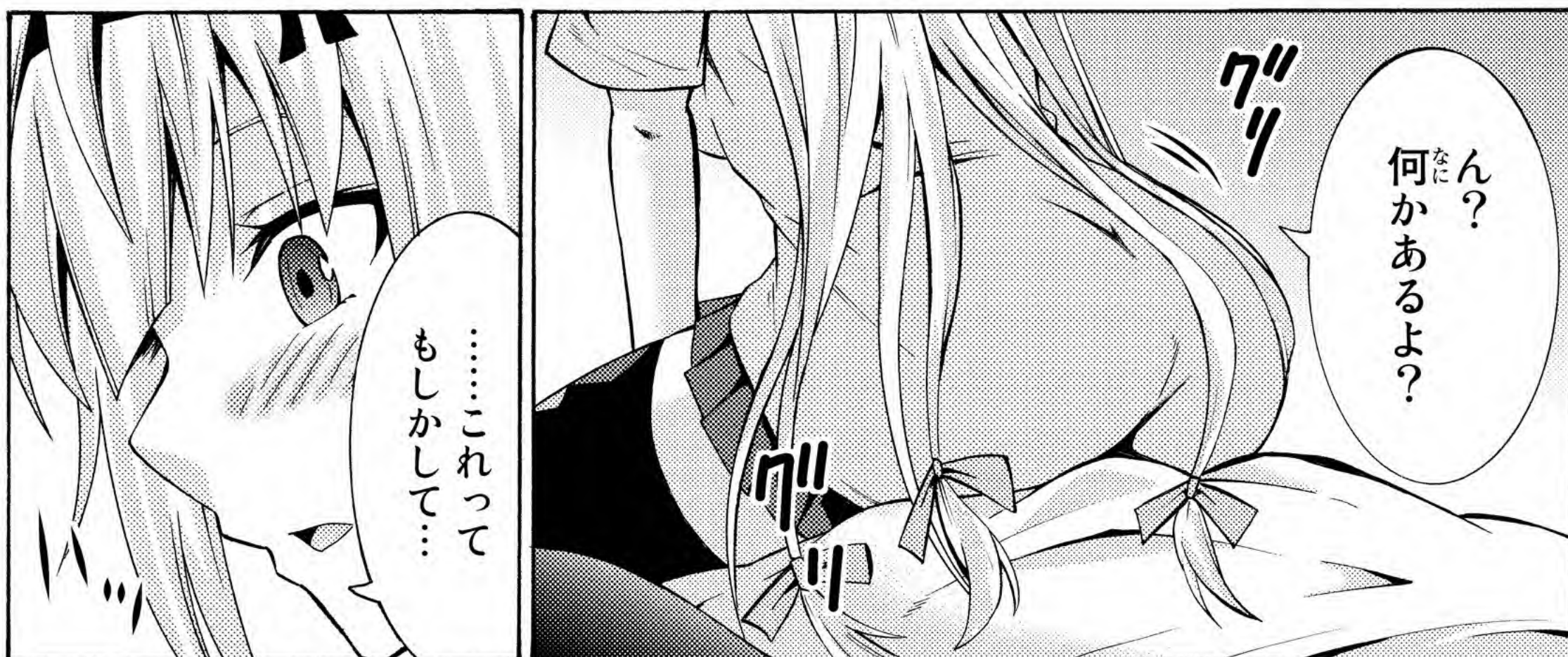
















やめてください！  
同棲なんて心臓が  
もちません

まさか俺に貴様ごときと  
同じ部屋で過ごせとは  
言うまいな？



だってあたし二部屋も  
借りるお金ないし！

でもこのままじゃ  
なんかレムが召喚主  
みたいだし！

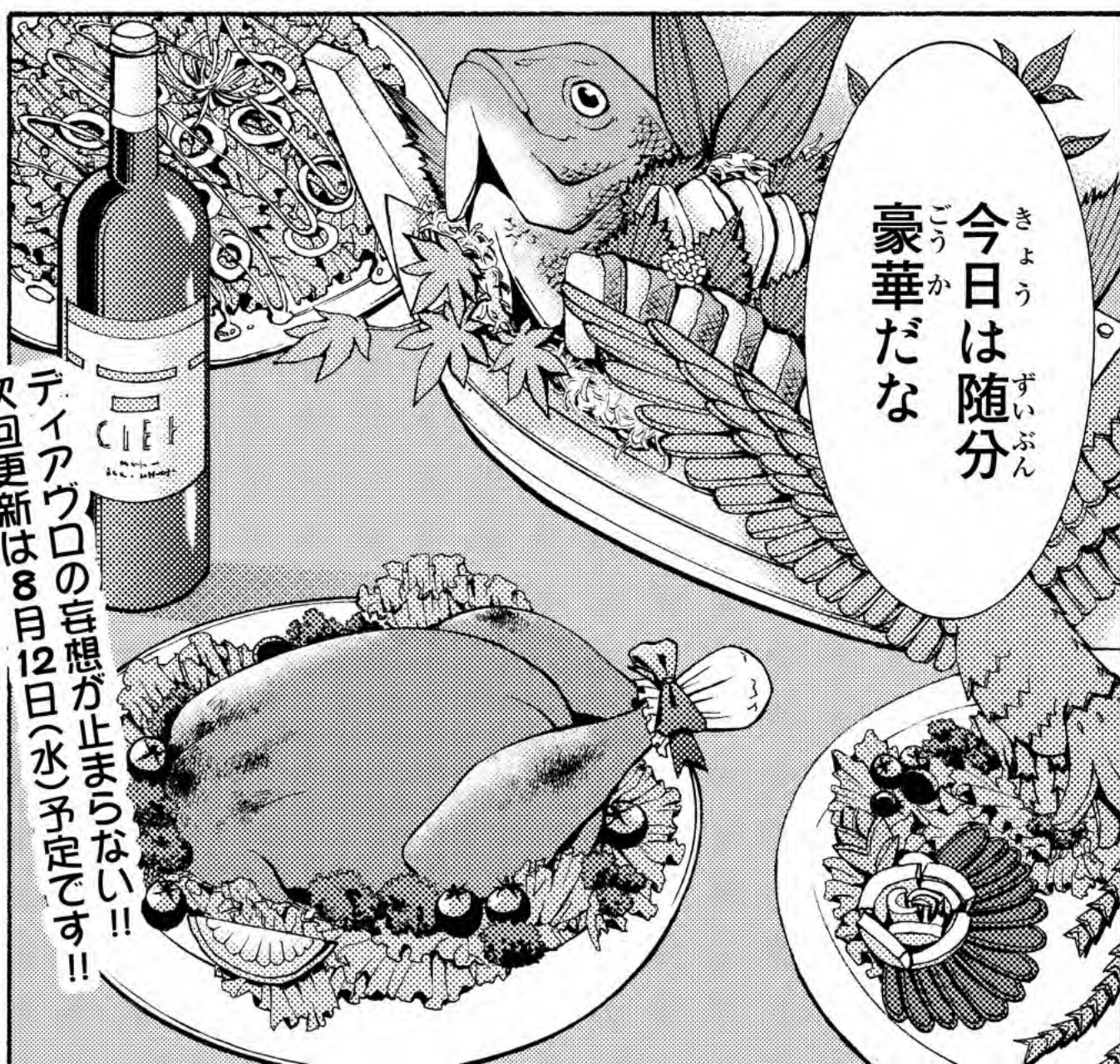


わたしが  
召喚主ですから  
当然のことです

あなたは貧乏なりに  
楽しく一人で過ごせば  
いいのです

違うもん！  
あたしが召喚主で  
一緒にいるべきなの！





ディアヴロの妄想が止まらない!!  
次回更新は8月12日(水)予定です!!